



「マネジメント」定義の歴史

マネジメント (management) は、「管理」や「経営」という意味を持ちますが、今では、組織の管理や運営を示す言葉として広く使用されています。マネジメントという言葉の定義は様々ありますが、一般的に認識されている定義は、著名な経営学者として知られるピーター・ファーディナンド・ドラッカー (1909~2005、アメリカ) が1973年に刊行した「マネジメント」から生まれたとされています。

マネジメントがわかりやすい本としては、『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの“マネジメント”を読んだら』がわかりやすく、読みやすいです。ご存知の方も多いと思います

ドラッカーは、「マネジメント」および「マネージャー」について、以下のように定義しています。

・ マネジメント：組織に成果を上げさせるための道具、機能、機関

・ マネージャー：組織の成果に責任を持つ者

簡単に言うと、組織に成果を上げさせるための仕組みやツールをマネジメント、組織が成果を上げるように働きかけ、責任を持つ人をマネージャーとしています。

マネジメントの目的と役割

ドラッカーの定義をもとに、現在では「マネジメント」の目的と役割は

・ 設定した目標に沿って組織を運営する

マネジメントは、リーダーシップと混同されやすい面があります。リーダーシップの目的は「方向性を示す」ことであり、それに対してマネジメントの目的は、「設定した目標に沿って組織を運営する」ことです。

ですが、ここでもしあなたがリーダーシップはマネジメントの領域でないと考えるのであれば、それは大きな間違いだと考えてほしい。

確かに、マネジメントにおいて下記の役割、

・ 目標の設定

・ 目標の設定に沿った組織の構築と運営

・ 成果の評価とフィードバック

は大きな役割であり、組織の「目標・案件・プロセス」を管理することで、組織の目標を達成することができますが、それだけでは人はずいてきません。

仕事において、人は人に導かれていくものです、リーダーシップは必要で、上記の大きな役割を達成するためには、チーム（部署）が今どのような問題を抱えているか？どのような道具（ツール）を必要としているか？適切な配置、人選になっているか？見極めていく必要があります。それにはコミュニケーションが非常に重要な部分です。

今後管理職の役割は？

組織が大きくなっていくと、いわゆるミドルマネージャー（中間管理職）の役割が特に重要となります。ミドルマネージャーが自分に求められる役割を理解していなければ、その組織から下は、会社全体から見てもあまり貢献できない組織になる危険性があります。役割としては大きく4つあります！

①情報関係

通常想像できる「業務に必要な社内外の情報収集」の他にも「会社の目標から自組織の目標は何かをブレイクダウンして自分の組織内に明示」「社内外での折衝と組織内の情報共有」などがあります。

自分がマネジメントすべき組織に対し目標を明示しなければ、組織の向かう方向を誤りかねません。自組織の目標を明示してその目標達成のためにリソースを活用することが、ミドルマネージャーの重要な役割です。

② 業務遂行関係

「業務遂行関係」は、進捗の管理や業務遂行上の課題解決、といった役割が主なものとなります。新規事業の創出や海外へのグローバル化対応もこの範囲です。

③ 対人関係

組織内の各個人に対して、長所を生かし、短所をカバーして協働し合える土壌を作り、組織全体のモチベーションを高めることが求められます。

④ コンプライアンス関係

社会に貢献する組織として、各種法規を守る必要があります。労働関係法規を守り、業務に関係する法律などの理解、個人情報や機密情報の適切な管理などがミドルマネージャーに求められている役割です。

未来の管理職に必要な能力として3つポイントがあります。

① **部下のキャリア・将来を見据えて必要な指導・育成**

部下の指導や育成は、マネジメント業務の大切な項目の一つですが、従来のトップダウン指導は求められていません。今後は、会社や自組織の目標を目指すなかで、部下のキャリアや将来も見据えた指導や育成が求められます。部下の育成においては、自主的に物事を考えられるよう、見守りやサポートをする姿勢がとても重要となります。（ビジネスマネジメント講座・ポジティブ心理学）

② **経営環境の変化を踏まえた新しい事業や仕組みを自ら企画立案**

これからも経営環境はどんどん変化し、従来の目標のままで従来通りの仕事をしてい
ては、会社の生き残りが厳しくなります。今後のマネジメントでは、常に新しい変化
をキャッチアップして、世の中の動きを踏まえた新しい事業や仕組みを自ら企画立案
することが求められます。（SDG s）

グローバル化や多様化する働き方への対応

現在でもすでに海外のビジネスパートナーが増えており、グローバル化に対応したマ
ネジメントは必須項目となってきています。また、これから労働人口が減っていく中
で、出産や介護などで労働の場にとどまっていられなかった層や元気な高齢者に対し
ても、柔軟に働けるような環境を用意することは急務となっています。このように多
様な働き方が広がっていくことは、マネジメントを多面的に広げていく必要があるこ
とを示しています。（アンガーマネジメント）

